

安全防災の視点から

今後の進め方を考える上で 今日の話題

- 現地調査の前に
- 使える資料
- 安全防災面でのコンセプト決定のエッセンス

災害のフェーズの理解

この全てのプロセスがリスクマネジメント

重要なのは平常時の分析と備え

平常時



- 防災教育
- 危険情報の確認
- 保険への加入
- 非常持ち出し袋の用意
- 防災訓練への参加
- 避難路の確認
- 連絡方法の確認 など

…出来ること、やるべきことに限りなし

検査・検旧期

- 畳、床板の交換
- 行政への被害報告
- 保険会社へ連絡
- 防災計画の見直し
- 土地利用の見直し



危機管理のプロセス

- 貴重品の取りまとめ
- 避難
- 救助

…出来ることは限られている

非常時(氾濫)



- 土のう積み
- 気象予報確認
- 雨の降り方の確認



貴重報告令期(豪雨発生)

災害の時間スケールの理解

- 一体どのくらいの時間スケールでまちづくりを計画しているのか？
- 各住宅の時間スケールだと30～40年くらい？
- 地区スケールだと100年くらい？
- 市や区のスケールだと200年くらい？
- それぞれの時間スケールで考慮すべき条件も変わる（人口増減，土地利用，災害の想定規模）

災害の空間スケールの理解

- まち歩き
- 避難の時間（例えば10分，30分など）で歩ける距離は？
- 視界はどうか？見通せるか？
- 夜だったらどんなイメージ？
- 水はどっちから来るか？土地の勾配，堤防の高さ
- 避難時の危険個所は？ マンホール，水路，道路の利用状況（駐輪，駐車，看板）
- 脆弱な所はどこか？ 老朽化，用途変更，管理者不在

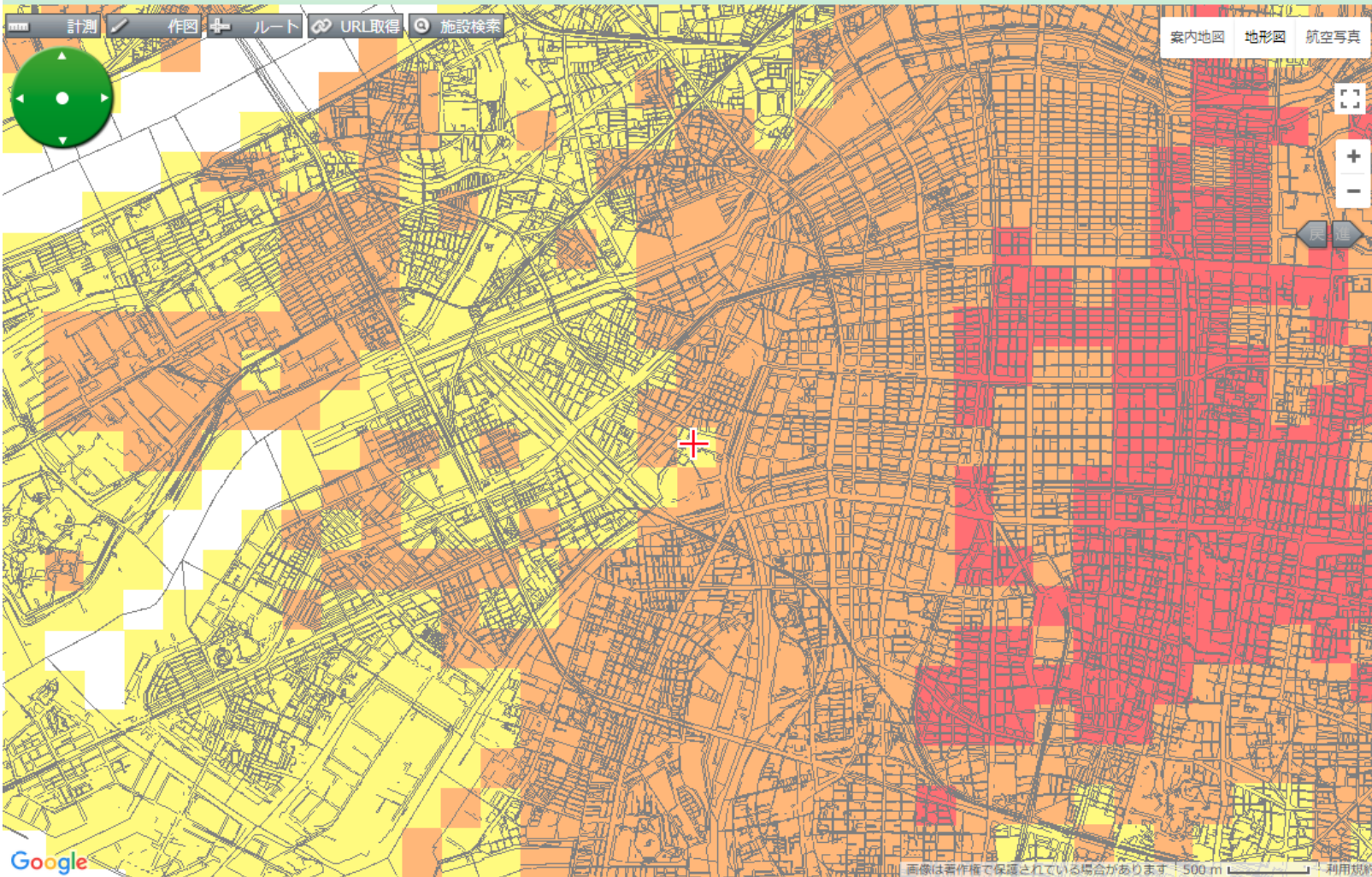
ハザードマップは現地見学で必須

- 現地に行く前に確認しなさい（どういうルートで見学するか決めるため）
- 現地にも印刷物を持っていきなさい（実際に歩いて確認するため）

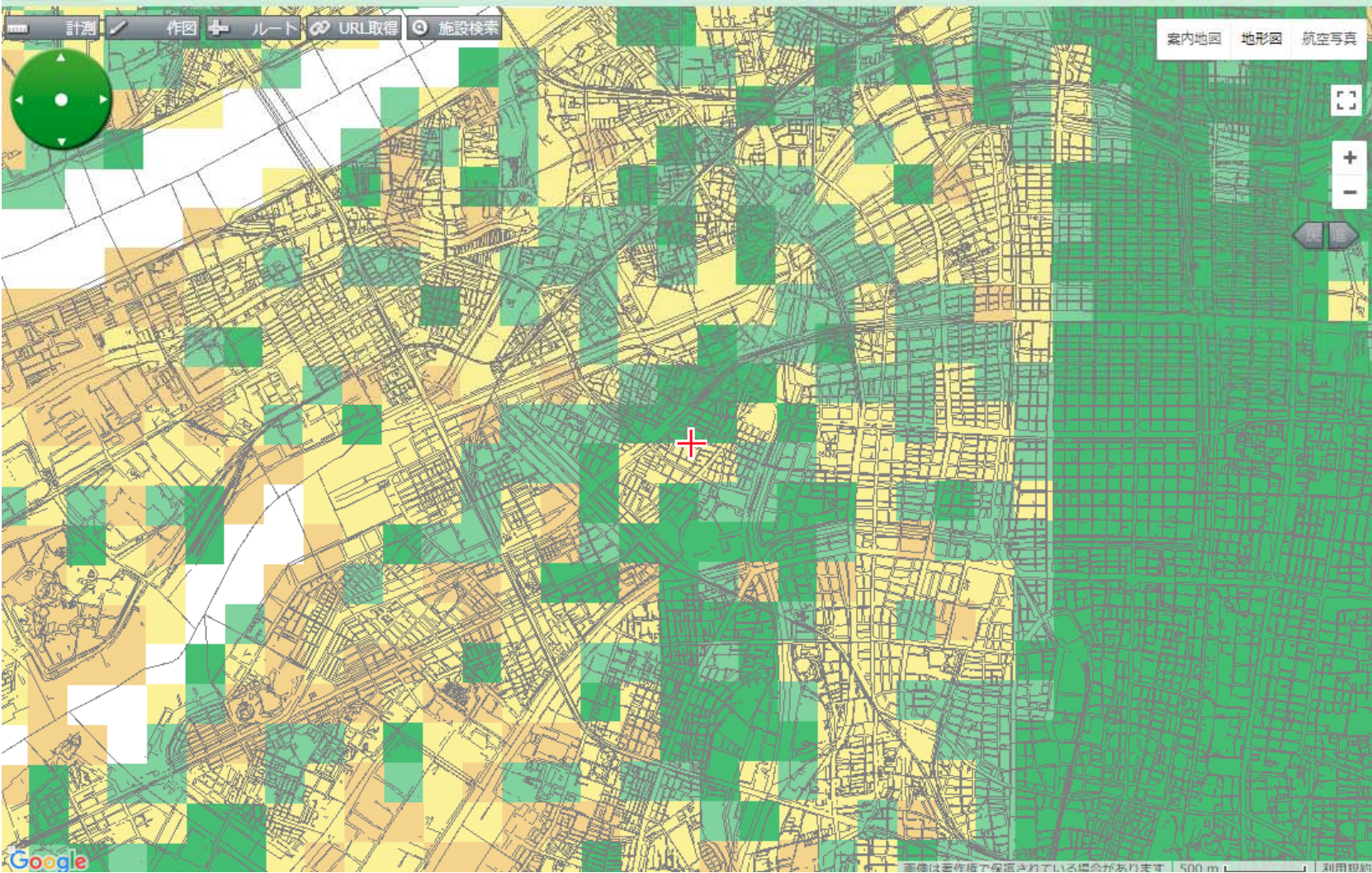
大阪市 マップナビおおさか から閲覧可能

別途地区ごとのハザードマップも大阪市のHPには用意されている

*ただし水害については、ここの情報以外にも
最新の「大阪大規模都市水害対策検討会（ガイドライン）」を参照すること



凡例		地域
災害時用ヘリポート	災害時用ヘリポート	
	防火水槽・プール(指定水利)	
	防災スピーカー	
浸水想定区域図	0.1m未満	
	0.1~0.3m	
	0.3~0.5m	
	0.5~1.0m	
	1.0~2.0m	
	2.0~3.0m	
	3.0~4.0m	
	4.0~5.5m	
震度分布予測図	震度4以下	
	震度5弱	
	震度5強	
	震度6弱	
	震度6強	
	震度7	
液状化予測図	極めて発生しにくい	
	発生しにくい	
	発生しやすい	
	極めて発生しやすい	



凡例		地域
	災害時用ヘリポート	
	防火水槽・プール(指定水利)	
	防災スピーカー	
浸水想定 区域図	0.1m未満	
	0.1~0.3m	
	0.3~0.5m	
	0.5~1.0m	
	1.0~2.0m	
	2.0~3.0m	
	3.0~4.0m	
	4.0~5.5m	
	5.5~7.5m	
7.5~10.0m		
震度分布 予測図	震度4以下	
	震度5弱	
	震度5強	
	震度6弱	
	震度6強	
	震度7	
液状化予 測図	極めて発生しにくい	
	発生しにくい	
	発生しやすい	
	極めて発生しやすい	